俳諧十家類題集

夏

文庫

俳諧十家類題集夏之部

○目録

四月　更衣　初袷　袷　白重　青簾
青嵐　灌佛　花御堂　佛生會　花擒　山王祭
加茂祭　加茂祭　葵　葵　競馬　大神樂　麦秋
麦の穂　穂麦　牡丹　牡丹　芥子菜
一つ葉　杜若　卯の花　卯の花　苧麻　餘花　若楓
若葉　青葉　若葉　新樹　夏木立　相の山
柚の花　花柚　橘の實　蘇　椿　蘇の實　夏山
夏野　夏艸　若の花　岩藤　筆　蓼

蔭　雩老帷　郭公十　雨乞鳥　蝙蝠十六　飛蟻
袋角　蚊　初投帳　多帳　蚊張　蜘蛛囲　初鰹
うぢかく　うぢかく十八　雀鮓　鮎鱠　短夜十九
夏夜　明やすし　一夏　夏書　夏の日　五月
端午　菖蒲　樗佩十七　根合　菖蒲賣　菖蒲花
菖蒲湯　粽十八　甲錫　紡甲　幟　卯地
薬玉　五月雨十三　五月雲　竹植　竹酔日　虎う雨
初蟬　雩青入　田植　早苗十四　早苗取　早乙女
田仲取　真菰　真菰苅　薄　簾　百合
早百合十五　南天巷　きり島　花菖十六　菖蒲　合歓
合歓忘　皐月忘　皐月忘　重箱　携　樗　雩見仲

枇杷の実十六　青梅　若竹　萱仲　茨菰　紅の花
石菖　忍冬巷　苏子　新麦　瓜の巷十七　瓜守
于瓜　雨蛙　ほたる十八　蚊屋　とうもろこし　蝸牛十九
ほたるの子　鳴巣　鳴巣　切　水鶏　黒鴨
鴨の子　青鷺十七　施喧　鴨　鮎　鯢
蠅　川狩十八　照射　夜ぶり　夏川　茨の風
鯀　小鯀　きひら　一重蔵　夏衣　夏の月十五
夏の海　六月　氷室　氷室使　一夜酒　醴
冷酒十六　茨酒　冷汁　祇園會　不二詣　御秡十七
夏越　夏神楽　天満御秡　芽漬　施米　雷
暑十八　夕立十九　洗鯉　土用干　虫干　虫拂

蠶　扇　麻頭巾 卑　團　切水　夏座敷

簟　竹婦人　籠枕　納涼 卑　涼し 卑　風薫 卑

夏涼し　六月朔　夏いきれ 卑　汗拭　雨乞　旱

雲の峰　清水 卑　河簀　干飯　水飯　冷麦

夏の月 卑六　葛　振舞ふ　氷　心太　林檎

涼しき　石竹　蓮 卑七　河骨 卑八　澤瀉　風車

海松　風蘭　麻　綿花　香薷散　真菜丸 卑九

瓜畑　夕顔　昼顔 卑　蟬　蟬　蟬衣　蟬の殼 卑

空蟬　夏虫　蠅　蚤　沖鱠　夏痩

香 卑二

俳諧十家類題集夏之部

四月

八十坊　輯校

更衣

衣いまと風を生ずる蚤とられ　芭蕉

汗のいとる赤ゐくそ衣　文　希因

蚊帳屋うそぬぐ蚊帳之　其角

法師も赤の下着やし文衣

ふ蚤もなくなるとこそ衣之

燈炙の裏に月なりし文　衣　嵐雪

蚤とられ日毎とられ衣之　来山

肩てけるを見てうらし衣こそ　麥林
夏衣吟行の人ものふ白し　蕪村
辻駕よりたれの世のうらもそ
夏衣市繁昌にたこ人
大無の世ちりやうもそ
給をせぬ家中のしたる衣
疫病の毛ゝ微風ゆる衣
汚れ討の夫婦なること衣
夏衣無くなるたる
古袷捨てのものよりもそ　芭蕉

夏　一

袷

傷をみるゝ捨てられとなる世界　嵐雪
袷出せるを見るこそ弟子のひとくなる　来山
をゝ朔を袷ぬぎを里の婦ゝ哭　言水
大風ゝ袷ぬぎをよりこそ袷の糸　其角
一つゝ袷ぬぎの袷のなるを思ふ木賣
掛のうゝとかゝこそ袷の糸
ぬるてわるせ袷やく袷の糸　蕪村
砧をゝ袋ふたゝ袋ふたゝ　希因
ちゝきたるの新や青もそれ　嵐雪
衣袋をゝ袋をゝ世の青蓋　嵐雪

白重
青簾

青嵐　青嵐さだまる時や苗の色　嵐雪

灌仏　灌仏や貌をさへ〳〵ねりも立たる　麦林

灌仏や捨子則寺の児　其角

灌仏や小僧が指を酒の胴　希因

花御堂　七堂は菊あり余所や花御堂　麦林

仏生会　麦飯や母りまゐらせて仏生会　其角

芭蕉葉の層ひらくや仏生会　麦林

花摘　花摘やもし先行人を児の母　言水

山王祭　山清水卯の花ちらし蕾なり　其角

かも宿　祭まちの大事に歩り大路哉　治徳

加茂祭　葵艸うらゝとしても牛の角　言水

草のゆかりの車さて乃ち　蕪村

葵橋　たちや葵艸加茂の使者今朝日　嵐雪

競馬　落さるゝ見るや打し楷　、

太神楽　太神楽秋に涼しの声も返し　言水

麦秋　葉に露あり今はら鎮夢　、

麦に涼しの麦の旋風を壊りけり　、

ろ士朝て見るを見る麦野の秋　其角

秋志らぬ世にありもかくし鳥麦　、

鍋の麦蔵り年を知てとや　、

麥の穂　其角

雜花堂麥ほ〳〵傳をまもるべし

悔るや麥とうの麥こゝ〳〵

うハ風の麥の芒麥を拾ふと

芒麥や麥の村の麥ふるう

麥のふるやし深〻深〻ふるく麥

麥の穂　希因

麥やし穂麥の中の車　芭蕉

麥の穂　蕪村

麥の穂ふるい〳〵ふるいつゝ河内の麥畠

牡丹

麥の穂ふるい〳〵ふるいつゝ麥の穂

麥一穂拾ふ春ほとゝぎす　沾德

村雨や鶴山をたゝくこゝ〳〵

うゝれ〳〵や洞むく牡丹　其角

牡丹の蕾ゆるしかゝる

八ゝ〳〵の家〻の拾ふ〳〵

猫の恋ワとをる笑ふ〳〵　希因

悔の〳〵恋ワとをる笑ふ〳〵

〳〵包むほとゝぎす　嵐雪

土蕚てふふこうの牡丹哉　嵐雪

古庭よりうまるるかうんこうる
、

積おろしの人のこころや牡丹畠　麦林

眠る蝶それもよ義ふそんこうる
来山

ものいふこうこんを傳へて小牡丹
、

拔出切らぬまれ蕉しみこう郎　蕪村

舞もして寄の弱りの牡丹こうる
、

此年のいこうこと牡丹郎
、

義りて後傳ふそんこうる
、

山城のこうこうこうこうこう白牡丹
、

闌之の比や牡丹を吐んこと
、

ふこうん義て寄こうこうぬ二三行
、

慶庭のふそんや天の一面
、

義こここもこうこうれ芍牡　芭蕉

義ふふもふこうこん後や　言水

きこ蜀ふちる條の頃はいこん　其角

義之の玉和雑庭の洞きこる
、

義こ傳こを風も牡丹こ義
、

牡て刺る吹も牡丹きこれ義　麦林

義玉不咲きこうこうこうこうこうこん　来山

芍日草

菱

義之の紫

[illegible]　蕪村
[illegible]　沾徳
[illegible]　芭蕉
[illegible]　沾徳
[illegible]　言水
[illegible]　芭蕉
[illegible]　其角
[illegible]

一ツ葉
杜若

[illegible]　嵐雪
[illegible]　希因
[illegible]　麦林
[illegible]
[illegible]　来山
[illegible]　蕪村
[illegible]
[illegible]　芭蕉

[illegible]　芭蕉
川[illegible]　沾徳
[illegible]　言水
[illegible]　其角
[illegible]
[illegible]　麦林
[illegible]　希因
[illegible]
[illegible]
[illegible]　其角

花卯本
餘花
名風

[illegible]　嵐雪
[illegible]　言水
[illegible]　其角
[illegible]　来山
鞠塵の[illegible]　希因
三平寺[illegible]　燕村
高低[illegible]　沾徳
村[illegible]　素堂
又[illegible]
毎[illegible]の均しを[illegible]　其角

年を経しふるさとの色も枯れぬしみ　其角
笑ふ風やしつかなる日の初時雨　嵐雪
木も草も八百万なる霜の朝　来山
とりとめもなく花の雪　希因
仙人の衣も脆なるうつろふ秋　蕪村
絶頂の塔のもとにたちつくす
高き梢の枯るるまでうつろふ
枯屋を生ぬ城ぬ所ぬ

青葉
みな海にて水海行くまでうつる
交代の年や初松　其角
義り　狂くしふ鏡てまつる指う那　沾徳
蓼摘　紫ひ山ふしやもち井の人の蓼摘　希因
川辺のうつるまでうつる　嵐雪
新樹　夏船をつなぐ新樹のうつる
葵木立　うつるの待つ夏木立　其角
並松の行燈ともしなれ木立　嵐雪
夕の羽も沈まる吹や夏木立　希因

相花　蕪村
柚花　其角
茶柚　治德
橘實　言水
藪椿　蕪村
蘇實　素堂
夏山　芭蕉
　　治德
　　其角

夏野　蕪村
夏草　其角
苔花　希因
岩蘇　麦林
筍　其角

元禄の筆を、うやまふこと、あり　其角

筆よりゆくすゑたのもしん

井の底を折敷なやみ月雪

井のうるやしうり藤の床に隅うも　山風雪

そらのうるやひの蓋をさの雪な

井のうるにそのうるをハるこ　日　沾徳

井のうるやしゆうり皮を軟らか作　来山

そのそのうる時を筆ぶとうれ

うるうるとうるなの雪や井の中

行のうるぶるそのそのうるなれて行れ垣

筆の義乃案内やおとづれさし　蕪村

そのそのうるやひの法ぶら寺ふの雪

うふうるうるく蓼ぶ物の雪のうるな　其角

砂川やあるを蓼と法を鶴に　蕪村

志のうるんやもうるうるに蓼の色

却の義のうるのうるの廣雪ぶ

雪老帰　雪ぶ行のうるぶ　芭蕉

新　ろ　うるうるに吟やみんのいやみ卅

時うるうるぶうるの上

おのうるうるを大井雪を深月　灰

[illegible] 芭蕉

[illegible]

[illegible]

[illegible] 沾德

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible] 言水

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible] 素堂

[illegible] 其角

[illegible]

傾廓

[illegible]

其角

[illegible]

[illegible]二の枝の梅の咲いたる　其角

郭公中入まてのこゑ残いたる

草の戸や[illegible]だに初ものと隠者哉

ちりくやはなを捨ても[illegible]時鳥

[illegible]人のつくるかきね

さもしくも本気なりけり[illegible]

院殿の[illegible]味噌すり　時雨

[illegible]人を残るの蚊遣哉

月の上に月をうゝ人やすゝ[illegible]

[illegible]月に蚊を洗へ郭公

[illegible]して[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

其角

[illegible]

孤蓑

[illegible]

嵐雪

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

希因

雨ふしてらしみても宗ねくきれ、　希因
ほくきれい友くりうくせ湖の糸、
ほとゝきれくらもよくかと須下地、　来山
瀧尻食や　鯵く船ら分れくまれ、
血の嘆て人をよごれ友ねらかす、
なくきれ叔母すれぬこゝう孫なれ、
わくきれ如来て惟名を離れ、
時鳥　裸く　起て　橋ふます行、
わくしき便すて叔母屋る坂の肉、
又寂まくてよ又通ふ社宮こしり、

宇治の境宮ほまよふしまか、
血をまくあのうらのみ時る、
浮りしや　医師　待多又わらまほ、
床縁をまくるひく　わくまれ、
竟よくて　肘も弱るや　渡りさらか、　麦林
時る　衣　明く　のまきらし、
夕暮を　ゆくつきを　何しを欲、
面をまの　筆も　止て　ありねくれか、
わくよれ　按摩の　耳の　何とよれ、
曉の　山　兀らしろ　ねくくふのか、

時雨降よ嵯峨に四季 江戸 蕪村

あらしさそふ紙帷子 京の宗長

、

ゆくゆくよ雲の奥 旅を思遣り

、

る紙衾を法りむ 宗長

、

わくらしてる主の寿てかるれば 言水

、

京の宿入日やし志賀の ゆくゆくよ

、

まちまちみちぬる中 新しき

蕪村

新たちう女切花や わくらしう

、

忘るなよ わくらしてみれば

、

寄なくてしぬ ほしし時雨

、

名のまくまくを元のわくらしう

、

稲葉屋の清兵衛 時雨

、

江戸金の相女 せよわくらしう

、

夏祭を淋しかるせる宋 名

芭蕉

炉塞下 話の中 指のせんこう

言水

江戸の小学 行をうんこう

其角

俳諧 寄る 貝を 清よ 居 名

、

風流なる 蕪のさいるや 宋居 名

、

かんこう 孤しいう 花んてい

麦林

うるさくぬ 笠の 蕪や 宋居 名

蕪村

かんこう

蝙蝠

足諦を守もよせし身らへんなる　蕪村
合次の底をゆく杙とや宗居鳥
哀つらし汎随の称く蔵やしうんなる
山人は人也宗居鳥は鳥なりけり
かんこどり梅のえだにも啼て居る
宗居鳥寺見ゆ麦林寺とやいふ
かんこどる可もなく不可もなくね哉
昭もよ夢ゐるを啼やかんこどる　希因
蝙蝠の扉もてらす身れ萬艸　其角
うちばりに字浴の化しや一聲う

飛蟻
袋角
蚊

かはほりの物ちらしをも拾ふなる
蝙蝠やむかひの女房こちを見る　蕪村
飛蟻とぶや富士の裾野の小家より
ふくらみよつゝれ物なり鹿の角　芭蕉
蚊の声のむらむらまよふ軒の雨　治徳
宵の蚊も払をとゞる八声かな　其角
鳥打蚊といはくいう蓍の忘
蚊をふく川や払しまる寺此鉢
蚊柱よ蓬の烟ちらしかるなり
ちゝ毛の蚊よ苦しむや足疾忌

其角

来山

蕪村

言水

嵐雪

其角

言水

来山

蕪村

素堂

其角

芭蕉

其角

蕪村

人のまことをいましめたるなり　其角

帆をおろすを毎にうつかつ孤うくれ、

うつかつ乃跡を已日の夕哉、

る毎とうるふうかやきんを紙、

揚貴妃の歩るを活る鮓の毎、

大悲の中く一年こうれかこうる　嵐雪

うつかつ孤きの名を着てうつかつる　其角

飯鮓の鮓をいうれ紙、うれ、

うつかつ孤をいるうの遠行る　蕪村

雀鮓
鮎鱠
短夜

うつ摘をうつうつ樹下に座ル、

鮓うつ中長根の鮓をうつ、

夢のうつをうつ中せ雀鮓、

うつうつ中の川岸鮎鮓　芭蕉

短夜や朝日行るの納屋付安

うつうつ夜中隣くうつ橋の立、

庵の夜もうつかうつ鮓つ　嵐雪

短夜をこ湯くうつ上うう栗　来山

うつうつ夜中うつん森貸式出たの、

短夜や二里の行る重のうつん　蕪村

ふるあめや仏入の扉俗の　蕪村
経あめや毛氏一の上の家の雫　〃
ふるあめ　てらてらて志賀の松　〃
経あめ　同人　流の川　〃　〃
ふるあめ　小人せ明るの所　〃　〃
経あめ　てるてるふちてるふ銀屏風　〃　〃
ふるあめ　いとぬ絶てるふ柳　〃　〃
経あめ　芳丸扉て鱸の　泡　〃　〃
ふるあめ　二人寄る大井川　〃　〃
経あめを眠てるあめ　義　丸　〃　〃

夏夜

ふるあめやてるの脊中かなこ　希因
夏の夜　武者屋敷　芭蕉
夏の夜の　夏の夜を　言水
夏の夜を　吉次の冠者の恨　其角
夏の夜の　なみの　〃

明安夜

四方をふへ夏をかくして　蕪村
一　夏　夏百日墨も　〃
夏書　日数ふ　〃
　　俗塚の　其角
夏の日　なみの日　嵐雪

○五月

端午　一カ月せんけ中名の九　節　嵐雪

ちゝ〻ち尾の中なく〻の菖蒲〻

菖蒲　けいやえふく清村山ゐれやけ中清り病　沾徳

ふ〻ち中そけのあ中名もちゝねゝも　来山

屋根ふかれと垂〻ふるけ中名ゝる　其角

我門をあ中名一ゐ香　一　用　沾徳

携佩　携佩てちとなゝ〻やゝ芝香　嵐雪

根合　根合や所沈よゐうん名　邑　其角

菖蒲煮　沈なのふく乾くやけやん煮　麦林

菖蒲　菖とせ様のけなよけやん邦　其角

毒のけ中名をやゐの羅　嵐雪

菖蒲ちけうゝ清ふの舞ゝる　其角

ちつ〻〻夕つをちえて菖ゝ

切ふえふひてけうゐ名

ふむけ〻坊ちまやゐ菖

ふ菖のゐもうねけし邦

菖蒲汁　枝やしをふの清ふ坊う邑　ろ　来山

粽

行潦を沼となしてそこに蛙　其角
朝湯とうり低徐句入れ屋敷こそ蛙　言水
ものしらしや粽くくても　粟門
芦田屋の雨をうけて粽売
粽売人に仆るる　挽む　類　繁　芭蕉
ちまきにらん駅よそんて後のあり　其角
竹の戸やいつまん草のこひ粽
石ちまきうる毎もありて粽うる　希因
ちまきにあるらんの竹ちまき　嵐雪
みちまくに上もなしの粽の地

甲飾
鎧甲
のあり

笠の日の雨もものこそ笠　粽　麦林
をもぬの乃ぬ甲や庫のうち　其角
新甲人ようしあるとせうう　来山
うまおくの表打をとのあり　沾徳
大鍬山を生ぬ切まねく蛙
潮をる竜をうらうよ蛙あり
本うしをしけいぬをるの鍬形　言水
なを弁のを落を武て鍬　其角
疫癘の涙を遠るのあり
鍬柄沖をる武川抗うけ手

印地　来山

葉玉　嵐雪

水月雨　言水

芭蕉

言水

沾徳

其角

三伝抄し寒手紙りさうむ水月雨

幕本やし人ろ屋ろの月雨

新ぬらし水田ろのうちうやし水月雨

行くうちうちうち深川の夜ろ雨水月

ちちちちちちれやし湯の桶ホ山ろ焼り

幕ろ、、、、、、、、、、、、、、

水月雨やしうれうホとろる人

ちちちちちれやし海舟てうろう初ろる

水月雨やし傘ろ作る小人形

うううううれの名ろ水せよ帝白ろ

さ月雨や不二の煙の後もなし　其角

さ月雨や頓判の通ひ路の庵　嵐雪

さみだれや硯箱なる庵のうし

さ月雨の塩屋ふるふ手水をとゝる也

さみだれや玉子の籠にみる日哉て　希因

さ月雨や夜のとほこてひと汁於

書きんまこたの始の印し五月雨　其角

さ月雨や佛の花を捨に出る　蕪村

さみだれや大河を前に家二軒

さみだれの田毎の写となりにけり

皐月雨

五月雨の大井越したるかしこさよ

小田原で合羽買ふたりさつき雨

湖へ不二を戻すや皐月雨

さゝれのうけ不枕や花の舟

竹なくてかゝるをとめん鳴るむ五月雨　其角

竹植

竹植て此後来る日積奇なる　沾徳

竹酔日

ふらずとも竹植る日は蓑と笠　芭蕉

雨きくや竹も酔ふ日の人はらむ　其角

虎ヶ雨

八ゝ永やしなりさなるかひ虎が雨

初蝉

はつ蝉や曾我の紋を十文字

雪ふる入

田植

風流のうゑやすし夏の田植うた　嵐雪

田一ぱん植てうゑる柳かな　芭蕉

合羽うゑてなるめてうゑる田植うゑる　其角

田植うゑてあるやうゑる角田川

魅ひて帰る田うゑの男かな　蕪村

うゑくらの新入合て田うゑかな　麦林

早苗

早苗も我うゑまさる日数かな　芭蕉

うゑて行やうゑ苗の縄墨乃義　言水

皆〳〵ゑやうゑるうゑる門　其角

物紙の早苗穂よ生る姫うゑめ　希因

早苗取

植てめくらも稲葉や早苗うゑ　言水

早乙女

うゑ女のうゑ行うゑの後こう郎　希因

うゑ女やうゑの後うゑく植て切　其角

うゑ女うゑ行うゑ嬉しさよ　言水

田植女能因後乃ゑくうゑ　来山

うゑ女やしゑうゑぬりぬゑうゑ　其角

田仲取

焼鎌の背中ふいし田仲うゑ　沾徳

ゑ流

ゑ〳〵ふうゑうゑ流よ和よ古ゑ　蕪村

ゑ流新

ゑ海〳〵利鎌ゑうゑうゑ流刈

蓮

清竹や今朝を白ふの岸よ咲　麦林

蓮草や大ぶの花の咲く　〃

蓮や紙をくくりとのみて居る　希因

ちれる花や金魚ようよとられ　其角

蓮のうるやしけられ月と寸む　蕪村

清泉の水に蓮花咲くのわれ　〃

ちる蓮舟をくくる花の蓮の花　素堂

風鈴の新もあるやし百合のうる　希因

百合

義うみの捨てをとうれる蓮葉　〃

仮初よさるりまけくうる谷の庵　蕪村

南天忌

南天の赤や去年は実の傳　麦林

ちるとなる　ちるとまふ立て捨てあれ　其角

赤蓼

いなふ秀りけるせぬ武士や蓼　来山

ちるの蓼なくの乃ち似るる郷　蕪村

踏ちるくて秀りせうる蓼　〃

ちれひけく宮ふ乃ふ生ちふいちら　〃

紫苑忌

いちるんをとみ蓼ちるや紫苑　嵐雪

あちるちらや一ちるちるくの乃　希因

合歓

恨の鄙も合歓の花ふ信ちる　蕪村

合歓花

信ちるちるくあひくを生ぬを行むの花　沾徳

皐月花　麦林

[illegible]　言水

菖蒲　[illegible]　其角

[illegible]

櫂　蕪村

芭蕉

雲の舟　其角

[illegible]　言水

青梅　蕪村

若竹　麦林

[illegible]　其角

[illegible]　素堂

蓋艸　蕪村

[illegible]　来山

菖蒲　其角

紅花　芭蕉

[illegible]　其角

石菖　其角
恩冬志　蕪村
苏子　希因
新麦　嵐雪
瓜花　芭蕉
　　蕪村
　　言水
　　其角

瓜守　瓜中に根を生ずるを瓜守とよめり
于瓜　于瓜中に入りて瓜を喰ふ虫
雨蛙　芭蕉
螢　言水
　　治徳

牧方より姿のうとくうるさうなる　治德
おもしろぬの袖れうら遠ふるる哉　蕪村
ものやうるさうなる虻の穴を呼ふる哉　素堂
あつさ忘るるよ小ぶ若やぐん　其角
蓼ぐさ高のわるくさん侍るし、
川涼やしるふこそれわるる　姫、
舟のうちより我を蓼ゑ蓼ゑ、
紫ゑ舟りてこれてこそ涼ゐる、
舟浮てこを哀まぬる舟、
義ゐて釣くるふ水ふるる　嵐雪

蚊遣

名殺の空のひくくちよ蚊ゐるさる　帝国
寄やまの夕くるくるる切て蚊ゐる、
蚊入行のふるやとくく天の京　来山
星間を屋ぐうぬるほる哉　蕪村
蚊を打て寝てれん竹　芭蕉
うるさくの中ふるる蚊帳篠　来山
蚊作業手のかやりる哉　其角
蚊をやうるやうたる方よ家　猶、
蚊をやくやう慶嘲の国の杉流、
蚊やうるよ夕兵ふ行る、

[illegible]

蝸牛

[illegible]れとうふうとなる蝸牛
蝸牛ものをもしやまの女のるをとり　嵐雪
夕うふのむせてもひぐく蝸牛　希因
うすれ屋ちなんの蝸牛のうの郷　蕪村
かりして糸くれ侍の[illegible]
蝸牛に養の蹄ちうやうの蝸
出ととんとうけそんを蹄ん　来山
養ぶうしの角や蔵り蝸牛　素堂
蝸牛の[illegible]れを角ゐ蝸牛　其角
年ちぬ兎の耳やかたりぬり

蝸牛の[illegible]ふ蓋せ[illegible]り
[illegible]の角やし伴ゑ生[illegible]蝸牛
文七[illegible]
[illegible]角のかたち
[illegible]角ふ貝をとり蝸牛　嵐雪
[illegible]やその角のしぬ[illegible]　蕪村
[illegible]
蝸牛の位置し[illegible]せ貝
[illegible]の[illegible]なる[illegible]　麦林
内川や鳴の後景なく　蛙　其角

友めて
鳴　宗

鴨巢　鴨の巣や二の上さく信濃の海　素堂

よゝ切　ひゝ汐の世や峠茶屋　言水

鳥籠　世をかなしみ鳥も籠の鶴　芭蕉

夜行さく鼠無尾さうなる鶴哉　其角

鳥籠や鶴さまに拵りの鶴　〃

琴を焼くゝの鶴を煮る教法師　〃

冥の子なる鶴の子さうなる　薫村

黒鴨　黒鴨や能て身を帰る月夜　沾徳

鶴の子　鶴の子や芦の葉毛羽揃　〃

青鷺　久しく哉や青鷺の脛をうり　〃

雉子　下やしき雉子の鳴く程の名　其角

鶴　鶴なる仕をして一里八丁ほどの松　〃

吐ぬ鶴の子なる白る鶴　〃

剣を弱水端れ鶴川　言水

修行者や藤流る鶴川の船　薫村

反古の名や鶴なる鶴川　〃

鶴なりし鶴飼なるをゝ鶴　〃

志のゝ名や鶴をのうれる魚游　〃

鶴乗潜くゝる竜ものれを恐射る　〃

西の方ゝ鶴なれ鶴ふるゝ　芭蕉

鮎

鮎釣中杭の笑うみ寒るなれ　芭蕉

鮎をとりて自然ふりく舟とり　治徳

鮎をとりてようてるる松の州　希因

鮎釣てるるきうくの鏡の鱗　蕉村

鮎釣てるるきうくの鏡の鱗　芭蕉

鰉

うれ舟の浮しき中へ鰉の甲　其角

鰉

川狩り中横上の人のえ釣り新　蕉村

川狩

月の對を笑る夜網のあ烟、

川うち中帰寄来ふるとも、

成長くたるかせう松蛸　言水

照射

雲川や物空遠きて防えのる　来山

射

弓杖て敷ふる魚のとりしる　嵐雪

杖て

為後の月待ち中杖て投魚　蕉村

芦川

なつ川を敷を始しさよ中件殿、

芦風

交風中形ぬうそみるるの魚　来山

絲

絲のもむとそ刻ち中蛍嬢等　治徳

小絲

芋中とそ長うして小絲貴　其角

ふしさのえて身あき本来　治徳

一六嘉歳

行と羽織猪毛をとし舟の作し　其角

身るかしむ一六嘉歳は法るる、

長衣　長袖の衣を着して寒の衣　嵐雪

夕食の後天地を忘るるなり衣　其角

雲月　月を行き〻と雲の中〻に消ぬる夜　芭蕉

月にてもうかれぬ夜の月伊勢の月を見て赤坂や　〃

夜の月蚊を病みて入る西面　其角

雲ふ入月や高砂の富士の小　〃

山の月ふるかぶ物ものの月　〃

明て後く家〻伏て夜の月　嵐雪

雲の奥ゆきつるも行きるる月　来山

玉鉾の道の月あり赤坂　燕村

堂ふの小ふなるあり夏の月　〃

めるるつけの海漁ふる夏や月　〃

夜れふる蛍人の夢や夏の月　〃

河辺の夏ふるる夏やなつの月　〃

夏の海

夏ふう孫子えんなりの海　言水

東ふ平西ふ月入ふのふ　来山

○六月

氷室　六月の密掛ふせふ氷室　言水

禁ぜられし所も法令なれば山　麦林
氷室かくし奉るの事なれば、
氷室山星霜の経るに見えず　其角
物さびたる深さ古き氷室山　希因
氷室役
一反酒　言水
百姓の苦屋なれば一反酒　其角
法律ふ宣給つるに一反酒　蕪村
酷
冷酒
酷の比類もなく菊根山、
菊菜を陶淵明の愛したり　言水

反酒
冷汁
紙子奉
反酒やしたるの下れる事　其角
反酒やしたる暁の柄杓哉
ひやしるの汁よりたる宵戸の世林　来山
紙子を命ぜやもの寄の風ふかる　蕪村
ぬくもんの屋やの法の法の法の、
月待や東西へいる山中海　治徳
待よりて人のさかひも知らる　其角
そなへ白もりに酒や紙子奉　嵐雪
氷室よりまるの所やうに法　其角
富士紙代よりまるの事の少し、

不二詣

佐板

角帽子白さを洞むれ不二指　素堂
押形とさを成永代佐板川　沾徳
年も子年に流るる佐板川　素堂
芸板佐野の古れそうろう　其角
佐くさを行くて海佐板　蕪村
夕べ不ル雉子なく山板川　嵐雪
ちりくさく月の紅葉や佐野の岡
つくばくの海見佐て芸板　〃
金の矢ひ宵井流るや文板　蕪村
出るの加茂ル板なくるる板　〃

芸越　大井川ふるくの古平　言水
芸神楽　祝ふ文ル佐うませ文ル神楽　蕪村
蛙なる佐さを熟や芸神楽　其角
天海佐板　船祭うちの佐きの宮中へ　来山
芳脇　ふるさを不のさをふる芸神楽　言水
施米　板ひ紀伊ふる川　於茅ふる　蕪村
雷　明るうる神明晴く　鮑の蓋　其角
署　ぬるさを自ル擬の未の子乃夕月ふる　素堂
小女の帯ふるさを佐けるさ神　其角
鳥兎糊のけるさのあけさ神　〃

供ふるこの鞘の暑さや昼の松　其角

人よりも暑さに点を打ちそへし、

夏暑し歌うれのうゝ雪の花、

暑さ西の木蔭ゝ通る暑さ、

小船う新の痛のいけさ哉、

澤深のふるうるあつさ嵐雪

雪仕て空も暑ゝ海の上、

いろをりやしるの付番の風を涼　希因

夏屋や炊暑ゝ汗よなる　来山

汗流よ衣の脊縫の白うゝ　其角

夕立

物居して暑さと避る暑さ哉　蕪村

暑さ日の力ふる扇う郭、

居うゝ毎ゝ痛ゝ毎ゝ暑ゝ、

日陰の石山城るいつゝ哉、

夕立や被も撫ゝ欠面も　希因

玉垂の中ゝ清ゝ流る山　素堂

夕ゝ雲や内裏ゝ少ゝ雨降ル　其角

雲の雲夕ゝ雲ゝ雲ゝ脇し、

夕ゝ雲や海を少ゝ雲ゝ嵐雪、

夕ゝ雲ゝ夕ゝ雲ゝ雲ゝ、

[illegible]　其角

[illegible]

[illegible]

四日の月夕[illegible]の時[illegible]ように　来山

[illegible]　其角

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　嵐雪

[illegible]　蕪村

[illegible]

[illegible]　其角

洗ひ雑　素堂

土用干　其角

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

虫干　其角

むしはむしと打本の小竹干さるる

虫拂　沾徳

むしはらひや蜘の住ふる東大寺

書紙干て竜と係寐の斬るる

樟脳又代をゆるふの浦る　其角

蓬生さる所いとるぬを出るしし

蠶　、

法の髪むるれ蠶の崖う那

扇　蕪村

ちとうてる扇の義法ゆるる

ちとうしてゆるよるゆる扇うる

法しゆ仲のうるさのうるる

麻布巾　、

ううう麻や被う法る麻布巾　其角

岩

扶桑うう岩う那　、

掬るるん て るる毋やぬる岩　沾徳

悼帰や本のふしうる岩岩う　其角

うるるの風情るる園うる　、

るう岩のるるのるふひう那　、

るるるひのうるる画うん竹のけ　蕪村

孫岩のうれるる法ゆるるる那

まるるやゆるるるるぬるる行　、

切水　其角

山も夏も節るるるるる法岩

芭蕉

夏座敷

簟

ゆる新るる岩森の立座や　簟　、

連やしけるこゝ表をさそうむし紙　其角
ちゝの、帯の神さよたゝうむし　蕪村
神殺ゝ夕風こゝろふるこゝろ、
抱籠や毒うゝてこゝのふ今日　其角
汗ゐ拭こゝ風こゝゝゝゝ弁慶俳　嵐雪
麝香こゝかゝし紙笑ゐ弁慶人　蕪村
涼ゝこゝ芋こゝ月ゝ　桂　麦林
夕涼こゝ蚊ゝゝ湖ゝけゝこゝ紙　言水
引神こゝ涼ゝこゝ新ゝ涼ゝこゝ、
秋風ゝゝ日新ゝ弱ゝゝこゝ　芭蕉

弁慶人
籠枕
納涼

勢田夕照

粥菊　女ゝ芋こゝ涼ゝ出ゝゝ拾こゝ　沾徳
切箔の四条ゝ涼こゝこゝ、
ゝこゝ羽の合せゝ拾ゝ夕涼　其角
夕こゝこゝこゝこゝ男ゝ生れこゝ
此ゝ家ゝこゝこゝこゝこゝこゝ、
新こゝこゝこゝこゝこゝこゝ　希因
ゝゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
ゝゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ　其角
此ゝ世こゝこゝこゝこゝこゝ、
涼こゝ泥こゝ合こゝ藤こゝ那、
涼こゝこゝこゝ朝紀こゝ蝉こゝこゝ、

義う家を出て川辺の流れる　其角
大山の流らぬ水をたゝへけり
牛ぬけ川むかの蓮の葉やけ流
流れてつゝの蓮て行ちるる蓮人
られやしこゝる羽織笠人下るこゝ
川をこゝ鳥の仮ぬるるゆるる
千ゝ雲ゝ田のゝうゝ雲て落ゝ　麦林
酒ふうれるゝうゝ山ゝゝゝる　其角
勅山の月おるゝしゝゝゝる
仏ゝうゝ風を居ゝ美

船を出て叩くゝゝゝゝ　嵐雪
大ゝ山ゝ下ゝ大ゝ長ゝ雨のゝゝ
見ぬゝの三位ゝ猿ゝ　来山
夕ゝゝゝゝ月ゝ雨ゝ　麦林
月出て座ゝゝゝ流ゝ　其角
ゝゝ眼のゝゝゝ流ゝ　来山
ちゝゝ風ゝ中流ゝ
流ゝゝ猫を出ゝ猫ゝ　其角
新今ゝ猫ゝゝゝ下ゝ
ゝゝゝゝゝ肩ぬゝ　来山

涼

川底のふくみ流るる清水の涼を掬ふ　蕪村

掬ふ手を涼ますうつす月の影　嵐雪

もゝしきや古寺の夕涼み　蕪村

よしの山の月の出でうつる夕涼み　蕪村

羽衣の天にたなびく涼哉　蕪村

猛けさや鶴往還く海涼し　芭蕉

ぬけうく月にうつるもの涼し　蕪村

山もゝしきやし坊主二人のこれ幾　来山

もゝしきやし坊主二人の涼哉　素堂

京酒の一月ぶきを笑ふ涼哉　蕪村

もゝしきやし坊主二人武蔵みく流す　其角

海を入て涼む角ゝ見ゆる　蕪村

夕茶所もゝしきやし坊の涼哉　蕪村

涼しさや帆の中なる永代のちゝ　蕪村

晴れを外もゝしきやし東哉　蕪村

涼しさやむ安房や上総さ海の　蕪村

芝浦のもゝしきやし武蔵の涼哉　蕪村

もゝしきやし武蔵の涼哉　蕪村

涼しさや中洲をもれぬかゝの夢　蕪村

上下と涼の間をゆくもゝ　其角

[illegible]　嵐雪

[illegible]　麦林

[illegible]　芭蕉

[illegible]　其角

[illegible]　素堂

[illegible]　蕪村

[illegible]　三水

[illegible]　其角

[illegible]　蕪村

風薫

露涼し

六月朔日

[illegible]

汗拭

[illegible]　其角

[illegible]　嵐雪

雨乞

[illegible]　蕪村

旱

[illegible]　其角

[illegible]　沾徳

[illegible]　其角

[illegible]　希因

清水

来山

麦林

蕪村

沾徳

其角

嵐雪

蕪村

二人してもとくを酒に清めてる　蕪村

寒食てきたてるなりの郷、

石上の琴を聴くしらきくるる、

門美姫鍋もちたなるる　其角

独とむなよ獺の祭り、

雲ゐるのとかくせむ雨雷　嵐雪

水飯　其角

冷麦

河の瀑布冷麦の九天より落る趣、

あの彩

あれ彩よりうれ落かゝる郷、

あれ彩やしらかゝれ落れ、　蕪村

河美

干飯

あの彩のさまにくるる仲の居、

宇治にて茗荷の郷、

茗荷

茗荷はるる清水の流れ、

振舞の

白ふるふる夏の下草道　其角

水の

此陰を一夏の涼へ水うつ、

こゝろ

四絃にて弱のきゝけやこゝろん、

明神のうる本の宋やゝ絃、

蕪村

林檎

さくらんぼ逆しまれ沿河之夏　蕪村

まるとうるも林檎を洗て雨ぶし　其角

うるふかさ

うるふかさる我も出る今朝うゝん　芭蕉

蓮

麦林

沾徳

素堂

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

言水

沾徳

其角

希因

蓮池や蓮と土の匂ひ　麦林
蓮の葉の葉の蓮の浮葉うれ
、
蓮をきらんとそ思ふ俗のさま　蕪村
蓮の香やしらげをこぐ舟二寸
、
浮売の蓮の葉ふる蓮うれ　素堂
、
氣こころもこころ四方の蓮のうれ
、
河骨
河骨や孤り寂しくぬれさうな　素堂
川骨や掻り洞を抜く羊来　嵐雪
かくれをを降く罷を物無うる　麦林
川かぬのこの世の世の中　蕪村

澤瀉
おもかたやこうやしろ矢をそなる　素堂
風車
牛のつの尺蔓うちうちの風車　希因
海松
海雲をやし見る出を雲に乗る　其角
海松の香の松の岩や初潮
、
こころ村香やし汐を風の張る雲
、
海雲をやしかくまとそしもちれ尼　嵐雪
風蘭
風蘭やしをまをかて一掬杪　麦林
麻　古文略
いらこ村やし家を陶作る幸　其角
いらこ村やし家の麻畑　蕪村

絵巻

香薷散

[illegible]瓜

[illegible]の花[illegible]の似[illegible]

香[illegible]

[illegible]瓜

柳行李の[illegible]

瓜の皮むいて[illegible]蓮[illegible]

[illegible]瓜の[illegible]の味

[illegible]

瓜の皮[illegible]

[illegible]猿[illegible]

瓜の皮笑[illegible]

素堂

其角

芭蕉

、

、

沾徳

其角

、

、

母の月や又[illegible]瓜

嵐雪

[illegible]

其角

[illegible]の[illegible]瓜の[illegible]

、

蕪村

[illegible]

、

来山

[illegible]

蕪村

[illegible]

芭蕉

[illegible]

其角

瓜畑

夕新

昼皃

夕がほや一臼残る宿　其角

ゆふがほや我垣をこえて○○ぬと　来山

夕がほや酒のあまりして見えぬ時　希因

ゆふがほの○○に形ありけり　麦林

夕がほに竹焼寺の薄あかり　蕪村

夕がほの花噛む猫や余所ごゝろ　、

ゆふがほや黄に咲たるもあるべかり　、

昼がほの米つき涼む庵の前　芭蕉

子供らよ昼がほ咲ぬ瓜むかん　、

うるしの神と昼かほる言水　言水

蝉

昼の月や猫のいとまをぬきけり　其角

あかつきや此庵の三十里　蕪村

志づかさや岩にしみ入蝉の声　芭蕉

やがて死ぬけしきは見えず蝉の声　、

暁の蝉の声して下り坂　沾徳

蝉鳴やあしらふ黒き指の跡　其角

蝉なくや木の下かげの蝉の声　、

せみなくや一日に○て松の声　、

外の蝉かな淋しくなりもせう　、

視二彼蟬一ヲ貧者ニ衣をぬぐ事と　、

頓て死ぬけしきも見えず蝉の声　芭蕉

下闇や地虫ながらの蝉の声　、

[illegible]蝉の声　嵐雪

大佛のかなた宮様せみの声　蕪村

半日の閑を榎や蝉の声　、

せみなくや僧正坊のゆあみ時　、

蝉なくや行者の過る午の刻　、

[illegible]楢も蝉の小川の[illegible]　、

蝉衣

[illegible]蝉衣　芭蕉

蝉売

鬼灯の[illegible]蝉の売　其角

空蝉

[illegible]　、

夏虫

夏むしの碁にこがれたる火影かな　、

蝿

蝿打や己が敵ひをなをし草　言水

それよりも妹忘れかねや[illegible]　其角

蝿をとらと怒る[illegible]　嵐雪

[illegible]飯粒蝿の[illegible]　、

[illegible]　蕪村

雪信の蝿打払ふ硯かな　、

蚤

切られたる夢はまことか蚤の跡　其角

[illegible]　、

沖鱠　来山
裳瘦　言水
こうこう香　其角
かけ香や　唖う蛍の知らうり
うう香や　蕪村
掛香や　何よりまづ憚　夜〻

俳諧十家類題集夏之部終